

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

2022年 6月 10日

静岡県知事 川勝平太 殿

提出者 米久おいしい鶏株式会社

住所 鳥取県東伯郡琴浦町中尾84-1

氏名 代表取締役社長 細井 康弘

電話番号 0858-52-2165

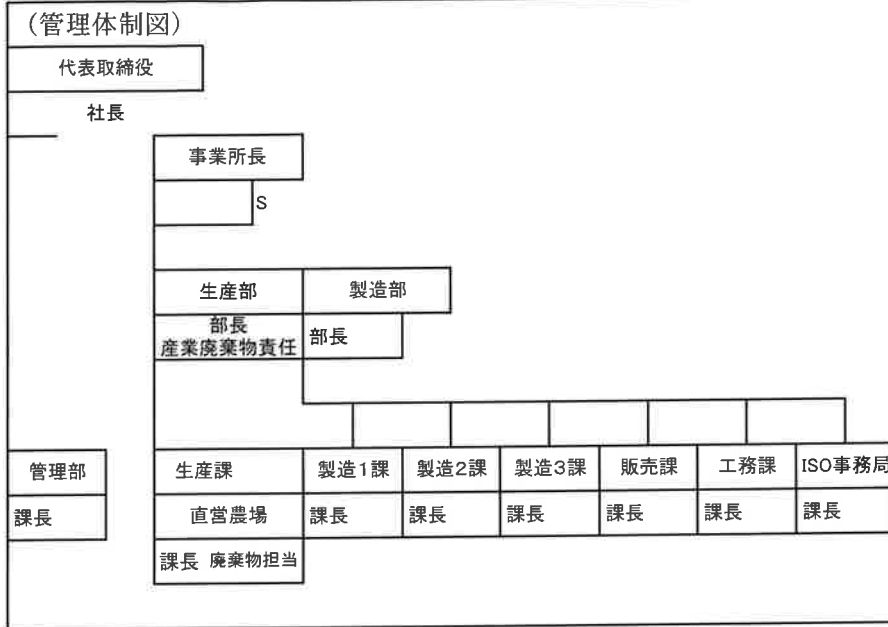
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他の処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	米久おいしい鶏株式会社 静岡事業所
事業場の所在地	静岡県磐田市笠梅462-1
計画期間	2022年4月1日～2023年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	食肉処理業
② 事業の規模	売上高 177億円
③ 従業員数	131名（正社員68名それ以外の職員63名）
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	家畜のふん尿→中間処分（堆肥製造処分） 廃プラスチック類→中間処分（圧縮、切断、粉砕）



（日本工業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（2021年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿 動物性固形残渣	廃プラスチック
	排出量	952.5 79.89 t	24.96 t
	(これまでに実施した取組) 鶏糞：鶏の飼育回数及び飼育羽数増加により鶏糞搬出量が多くなった。 廃プラスチック：農場閉鎖に伴い廃材の量が増えた。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿 動物性固形残渣	廃プラスチック
	排出量	500 t	0.2 t
	(今後実施する予定の取組) 鶏糞：2022年度新たに鶏糞ボイラー1台を増台したことにより鶏糞を全量焼却し廃棄量削減することを継続目標とする。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類：廃棄物として処分するものと分類を確実にし、廃棄量を削減している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類：上記の内容を徹底していく。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

【前年度（2021年 度）実績】			
①現状	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿 動物性固形残渣	廃プラスチック
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	1,200 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 鶏糞ボイラーを設置し焼却処理を行っている。		
【目標】			
②計画	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿 動物性固形残渣	廃プラスチック
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	2,000 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 2022年度 鶏糞ボイラーを増設し鶏糞を全量焼却処分することを 計画しています。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

【前年度（2022年 度）実績】			
①現状	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿 動物性固形残渣	廃プラスチック
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	1,200 t	0 t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	1,000 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 鶏糞ボイラーで得られる熱で水を温め鶏舎床の配管を通し使用している。		
【目標】			
②計画	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿 動物性固形残渣	廃プラスチック
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	2,000 t	0 t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	2,000 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 鶏糞ボイラーを増設することにより全鶏舎に熱源を供給可能になる。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（2021年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿 動物性固形残渣	廃プラスチック
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 自社で埋立処分又は海洋投入処分を実施したことはない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿 動物性固形残渣	廃プラスチック
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 引き続き埋立処分又は海洋投入処分をする予定はない。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（2021年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	家畜のふん尿 動物性固形残渣	廃プラスチック
	全処理委託量	1,032 t	24.96 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	24.96 t
	再生利用業者への 処理委託量	1,032 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 家畜のふん尿：鶏糞ボイラー増設を計画し廃棄物を削減するようにしました。		

		【目標】			
		産業廃棄物の種類	家畜のふん尿 動物性固形残渣	廃プラスチック	
②計画	全処理委託量	500	t	24.96	t
	優良認定処理業者への 処理委託量		t	24.96	t
	再生利用業者への 処理委託量	500	t		t
	認定熱回収業者への 処理委託量		t		t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		t		t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>家畜のふん尿：2022年度 鶏糞ボイラーを1台増設したことにより 廃棄物削減に取り組むようにします。</p>				
※事務処理欄					

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。